

県民公園づくり空間「あいちサトラボ Aichi Satoyama Laboratory」について（案）

「県民公園づくり空間」ってなに？

県民公園づくり空間は、この地で開催された 2005 年日本国際博覧会（愛・地球博）の理念と成果を継承するプログラムの展開地として愛・地球博記念公園基本計画に位置づけられています。

県民参加の基本方針

ワークショップにおいて、県民公園づくり空間における県民参加の基本方針が以下のよにまとまりました。この思いを共通の理念として、県民や公園利用者が主役となった公園づくりに取り組んでいきます。

県民公園づくり空間「あいちサトラボ」は
県民の自主的な活動の場、交流の場
 です
 ここは自分たちの手でつくっていくプロセスを体験できる場所であり、農の営みや先人の知恵を実体験することで、自然の循環を学び伝える場所です

「サトラボ」ってなに？

～共に学びあう愛知の里山実験公園～

愛・地球博のパビリオン建設の為に埋められた谷津
 削られて裸地になった斜面
 かつてアスレチックに使われていた二次林
 決して豊かとはいえない土地だけど、県民の期待に応える何かがやれる場所にしたい。

この呼びかけに集まった県民有志による企画会議を続けること 3 年
 みんなで共有してきたテーマは「農業を中心とした里山を一から創る体験がしたい、先人の知恵を学びたい、遊びを通じた環境学習をしたい」というものでした。

ユーザー不在の箱物行政からの脱却を目指し、可能な限り県民の希望や主体的な活動を具現化させたいというのが、サトラボのコンセプトです。

かつての里山がそうであったように、極力自分たちの手作業によって里山を創る様々なノウハウを体験学習できること。環境博と言われた愛・地球博の思想を継承し、里山の営みを通じてエコロジーや生物多様性の重要性を楽しく学べる場所であることを目指しています。

やってみたいテーマで小さなラボ（Laboratory：実験室、研究室）を作っているいろんな経験者や専門家と一緒に学びあう。

たとえば

- つちラボ……「土作り」をテーマにした研究会
- いしがきラボ…「野積の石垣作り」をテーマにした研究会
- こめラボ……「安全でうまい米を作る」をテーマにした研究会
- もりラボ……「森を作る・森で遊ぶ」をテーマにした研究会
- むしラボ……「生き物とふれあう」をテーマにした研究会
- かわラボ……「流れを作る」をテーマにした研究会

共通の目標はいい里山をつくること。そのための智識や経験をここで学ぶこと。

全部のラボで学んだら、グランドスラム、「ドクター里山」だ！

それぞれの研究会の実験メニューは完全公開。他のラボから意見されることもあるし、連携プレイも可能だ。

取組みの経緯

県民の参加によってみんなで公園をつくり、多様な交流で成長する公園を目指す「県民公園づくり空間 あいちサトラボ」の取組みが2007年からスタートしました。

■1年目(2007年度)

2007年夏に愛知県建設部公園緑地課と愛知県尾張建設事務所東部丘陵工事事務所記念公園整備課とが事務局となりワークショップの開催を呼びかけ、応募のあった37名の応募者全員をメンバーとして初年度のワークショップを開催しました。

9月 初回のワークショップを開催。計画予定地を見学し、公園内のフィールドセンターで計画地のアイデアを話し合い「ユニークさ」「楽しさ」「万博の感動」「自然を壊さない」といったキーワードが集まりました。

10月 138タワーパーク（愛知県一宮市）、各務野自然遺産の森（岐阜県各務原市）の2つの公園を見学し実際の公園施設と運営のあり方を学びました。

11月「キーワード(理念)」「やりたいこと(運営)」「施設やひろば(整備)」の3つにポイントを絞って目指したい計画地の方向性を話し合いました。

12月 前回に引き続き、目指したい計画地の方向性を話し合い「県民参加の基本方針」が定まりました。

2008年1月 公園プランづくりに取組み、プログラム展開を含めたプラン素案が出来上がりました。また管理運営面での課題が浮かび上がってきました。

■2年目(2008年度)

初年度の成果を引き継ぎ、県民公園づくり空間の具体化を目指して、引き続き2年目のワークショップ（築こう編）を開催しました。

8月 今年度のワークショップの進め方（スケジュールと到達目標）が固まりました

9月、10月 この地で展開したいアイデアを「アイデアノート」に書き出しカード化する作業を2回にわたって行いました。これにより活動プログラム集が出来上がりました。

11月 メンバーの意見を反映して作成された「農の営みを優先的に配置したプラン」(A案)、「先人の知恵を優先的に配置したプラン」(B案)、の2案のたたき台プランについて意見交換を行いました。両案への指摘点を踏まえて1案に絞り込むこととなりました。

12月「ワークショップの意見を反映した修正プラン」(C案)について意見交換を行いました。C案をベースにプランを深めていくこととなりました。

2009年1月 この空間での日常の活動を思い描き、運営上の課題を洗い出すために「とある一日の絵日記」を作成しました。絵日記を相互に確認することで、多様な視点や新しいアイデアが確認できました。

2月 運営に必要なスタッフ体制を確認しました。「プログラム場面ごとの運営イメージ」を確認することで必要な人材、組織構成、プログラムの流れ、を把握することができました。

3月事務局にて図化された「計画平面図」について意見交換を行いました。メンバーの思いが形に表れ「本当にできるんだ」との実感が皆の心に湧いてきました。また「場所」と「会」の愛称も話し合いました。

■3年目(2009年度)

ワークショップと平行して進められていた県民公園づくり空間実施設計（建築施設等を除く）がまとまり、いよいよ活動に向けた準備を開始する年となりました。ワークショップは「全体会」に名称が変わり、6月からは事前の事務局打合せにメンバー有志も加わるようになりました。

6月 活動団体の名称は全会一致で「モリコロパーク里山開拓団」（仮称）に決まりました。（場所の名前は当面は正式名称である「県民公園づくり空間」を使用し、場所の形が現れ

た段階で決めることとなりました)

10 月 今年度は仮の組織体制・規約（案）を作成し開拓団の設立準備会を発足する方針が確認されました。その上で改めて参加者を募集して、新たな会員を加えて開拓団を正式に発足する方針が確認されました。また、今年度に取り組む拠点施設の実施設設計について会の意見を参考にしていく方針が確認されました。アドバイザーの水津先生から「あいちサトラボ」のコンセプトが提言されました。

11 月 採決の結果、次のことが決定しました。6 名のメンバーが世話役となり、事務局体制が充実してきました。

愛称「あいちサトラボ-Aichi Satoyama Laboratory-」

ワークショップの名称変更「モリコロパーク里山開拓団設立準備会」

事務局ミーティングの名称変更「世話役会」

拠点施設の設計は、利用と間取りについて、メンバーが事前に考えてきたアイデアを発表。拠点施設のコンセプトと必要な機能の具体像が次第にはっきりしてきました。意見を踏まえて次回までに事務局でプランを作成することとなりました。

12 月 東部丘陵工事事務所の発注による基盤造成工事がついに着工。施工業者さんの工事説明を聞いて、工事途中で実際の地形を確認することも決まりました。いよいよ姿が現れてきます。現場が動き始め活動の場が出来つつあることで、まずは活動（ラボ活動）に取り組んでいくことになりました。拠点施設の設計は事務局から2案(A,B案)の提示がありました。農家の間取りにとらわれない修正案を次回までに作成することとなりました。

2010 年 1 月 契約上の問題が発生して基盤造成工事がストップ。残念ながらしばらく工事は動かないことになりました。拠点施設の設計は修正案(C案)について活発な意見交換が交わされました。次回までに土間と板間のシンプルな構成の再修正案を作成することとなりました。活動計画は試験的に取り組むラボ活動を「お試しラボ」と命名して、事前に考えてきた活動アイデアを世話役会が発表して、大いに盛り上がりました。

2 月 拠点施設の設計は再修正案の 2 案(D,E案)が事務局から提示されました。展示空間にも使える土間を配置した魅力的な間取りが出来上がりました。薪ストーブや囲炉裏も設置することとなりました。外観は 5 案(A~E案)の中から軒空間の使いやすさと太陽光や草屋根への発展性などから切妻屋根と下屋根で構成する案(C案)をベースとすることに決めました。ラボ活動は工事中でも活動が出来る場所として「森のゾーン」「果樹園のゾーン」の 2ヶ所で活動していくことが決まりました。

3 月 ラボ活動は 2 つのグループに分かれてプログラム作りに取り組みました。両グループとも早く活動したくなるような魅力的な骨格が出来上がりました。拠点施設はトイレ、シャワー、空調など細部の調整が進みました。事務局より 3 月から造成工事が再開する報告がありました、次回からは現地で活動できそうです。

モリコロパーク里山開拓団

県民公園づくり空間 あいちサトラボの運営は、公園管理者（指定管理者）と任意団体である「モリコロパーク 里山開拓団」（以下「開拓団」という）との協力のもとで実施します。公園利用者に提供するサービスの内で開拓団が担う範囲は、公園管理者（指定管理者）との協議によって設定します。

■発足

- ・ 2009 年 11 月 21 日(土) 設立準備会発足
- ・ 2011 年春 里山開拓団発足（予定）

■団員数

- ・ 団員 名（平成●年●月現在）
（大人 名、子ども 名）（男性 名、女性 名）

■団員登録について

- ・ 団員の登録は個人登録とする

- ・ラボ活動を希望する場合は会員登録が必要です（「ラボ活動計画シート」に記入し、全体会で他のラボ等との調整を行います）
- ・会費は発足までは無料です
（発足後は、個人・家族・団体 2,000 円、企業 1 口 10,000 円以上）
- ・団員は行事、体験イベントの参加費が無料となります

■活動日時

- ・案内窓口：毎週 火曜日/木曜日/土曜日/日曜日 10:00~15:00
- ・活動日時：公園開園時間内に随時
（ラボごとに活動日時は異なります）

■活動内容

★テーマごとのラボ活動

グループを編成して実践と学びあいを行います
ラボ活動の成果展示や参加呼びかけなどの情報発信は「拠点施設：サトラボ交流館」で行います

（要望の多いテーマ例）

- つちラボ……「土作り」
- いしがきラボ…「野積の石垣作り」
- こめラボ……「安全でうまい米を作る」
- もりラボ……「森を作る・森で遊ぶ」
- むしラボ……「生き物とふれあう」
- かわラボ……「流れを作る」

★季節行事の開催

収穫祭、お祭りなど

★来園者向け体験イベントの企画・運営

公園指定管理者との共同開催

★定例会、世話役会の開催

運営方針、整備方針についての調整

■活動憲章

■モリコロパーク 里山開拓団憲章（案）

農村では、日々の生活に使う燃料や肥料の多くを人里に近い雑木林や草地から得ていました。人々の生活場所とその周辺の森や竹林、水田、畑、用水路、ため池などの人々の生活とかわりを持つエリアを総称して「里山」と呼ばれています。

しかし、生活に使うエネルギーや資材を里山に求めることがなくなった現代において、里山はその価値が忘れられ人が手を掛けなくなり、その結果、里山の営みが失われ、生態系のバランスも失われつつあります。

モリコロパーク県民公園づくり空間「あいちサトラボ」は、農の営みや先人の知恵を実体験する中で自然の循環を学びあい、より広く伝えていく場となることを目的としています。そして、県民自らの手によってその姿が保たれていくことを目指しています。

県民公園づくりの実現に向けて、より多くの人々がこの活動に参加・協力できるよう、ここにモリコロパーク里山開拓団憲章を定めます。

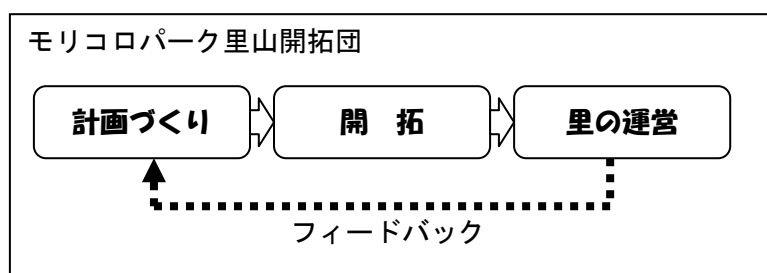
1. 里山開拓団は、**みんなで考えていく**活動です
2. 里山開拓団は、**みんなで育てていく**活動です
3. 里山開拓団は、**みんなで学んでいく**活動です
4. 里山開拓団は、**みんなに伝えていく**活動です

■会則

モリコロパーク里山開拓団では会則を設けています（別紙を参照ください）

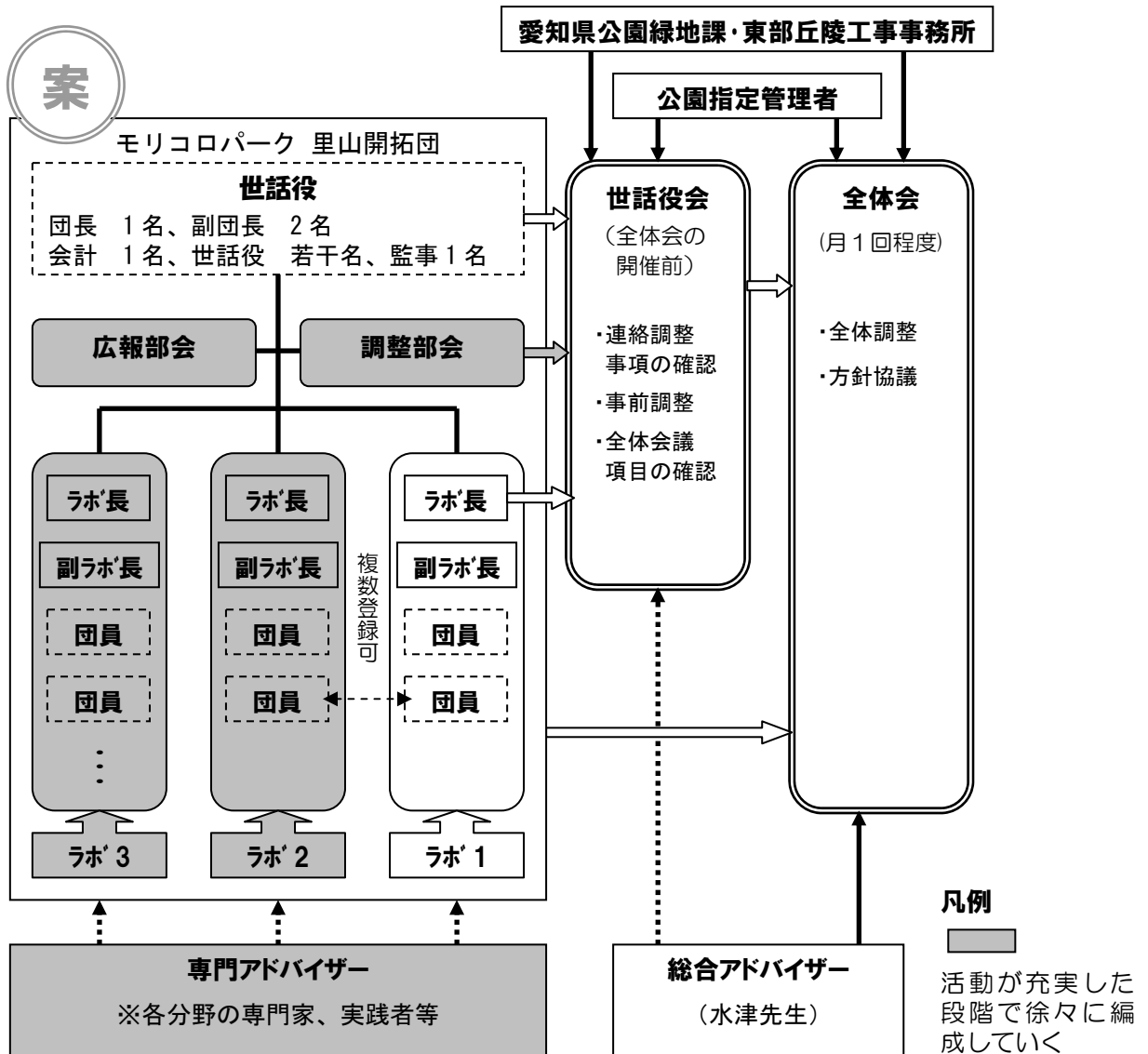
■里山開拓団の役割

里山開拓団は県民公園づくりの実践母体であり、計画づくり、開拓、里の運営を一貫して取り組み、その成果を次の計画づくりに活かしていきます。



■運営のしくみ

開拓団は以下の組織によって運営しています。開拓団と専門アドバイザー、公園指定管理者、愛知県とが連携して運営していきます。



<世話役>

開拓団の運営を担う事務局です

<調整部会>

案内スタッフの当番調整、ラボ同士の施設利用と活動調整、団体利用者の受付調整等を行います

<広報部会>

会報の発行、案内チラシの作成、ホームページの管理等を行います

<世話役会>

全体会の開催前に開催します。連絡調整事項の確認と、全体会で確認が必要となる議題の確認を行います

<全体会>

定期的開催します(月1回程度)。報告事項の伝達や、全体合意が必要となる議事事項の話し合いを行います

<専門アドバイザー>

農業や工芸・陶芸、季節行事、食品加工などは、知識や経験が必要です、そこで、実践者や専門家、有識者に各専門分野のアドバイザー（登録制）となっただき、体験学習活動の指導やサトラボのチャレンジをサポートをしていただきます

＜総合アドバイザー＞

愛知県立芸術大学准教授 水津功先生

このプロジェクトの立ち上がりから継続して指導をいただいています